

目次／展示物の紹介 コスタクリメニア 表紙／館長挨拶 岩手県立博物館40周年を迎えて p.2-3／開館40周年記念 岩手県立博物館 展示会の歩み p.4-5／活動レポート 岩手県立平舘高等学校との連携プロジェクト 活動レポート チャレンジ!はくぶつかんの令和元年度皆勤賞受賞者 p.6／活動レポート トピック展「お雛さま」と「五月人形」 事業報告 MORIOKA神保町ヴンダーカンマーの共催 p.7／インフォメーション p.8

## 展示物の紹介 日本最古のアンモナイト コスタクリメニア (Costaclymenia sp.)



デボン紀に出現した原始的なアンモナイトの一種。殻の表面に多数の肋が発達している。このアンモナイトは一関市東山町のデボン紀の地層（鳶ヶ森層）から、日本初のデボン紀のアンモナイトとして1992年に報告された。現在のところ日本で最古のアンモナイト化石である。「クリメネ」はギリシャ神話に登場する女性（女神）の名で、Costaclymeniaを直訳すると「中肋のあるクリメネ」という意味になる。アクリル板の大きさは8cm×6cm。

## ■館長挨拶

## 岩手県立博物館40周年を迎えて

岩手県立博物館館長 高橋廣至

## 【はじめに】

岩手県立博物館は、昭和55年10月5日、郷土に対する知識と理解を深め、未来の岩手の可能性を認識して、教育、学術、文化の発展と、郷土を築く県民の意欲の高揚に寄与するという基本構想と県制百年を記念とする事業構想のもとに、総事業費60億3500万円を投じて開館しました。

開館当時の県立博物館・外観  
岩手山の眺望を考慮して施設された

## 【県立博物館誕生まで】

1951年に制定された博物館法により、「資料を収集し、保管し、展示して教育的配慮のもとに一般公衆の利用を供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資するために必要な事業を行う機関である博物館は、公民館、図書館とともに社会教育機関、生涯学習機関の一つであり、学校教育と連携しながら国民の教育発展に寄与しようとするものである」と定義されました。その後、全国に博物館の建設機運が高まり、特に高度成長期には博物館建設のラッシュが起きました。

こうした時代的背景のなかで、昭和48年4月、岩手県でも県立博物館建設事業委員会が設置され、「今日の博物館は、従来の博物館が持っていた単なる収集品の保存及び展示物という考えに止まらず生涯教育の拠点として、年齢、性別、学歴を問わず誰でもが、いつでも地域社会における産業、文化、生活を創造するために学習できる場としてとらえねばならないだろう」との博物館における新たな意義が示されました。その後、7年間の設立準備期間を経て岩手県立博物館は開館の日を迎えました。



落成記念式典 昭和55年10月4日

## 【展示構成】

開館時から40年間、総合博物館として原始から現代に至る岩手の歴史の流れと時代の特徴が展観できる展示に努めています。考古・歴史・民俗・自然など、分野ごとに専門的な展示を行う分類展示、特別に設定したテーマに基づいて行う企画展示、及び総合展示との関連をはかり、特色ある民家等での展示も行っています。これらの展示につきまちは県民の期待に応えるよう、今後更に企画や工夫を凝らしながら実施してまいります。

開館当時は近代美術展示室が設置されており、日本の近代美術の担い手として活躍した萬鐵五郎、舟越保武等の作品を中心に岩手の誇りうる作家の作品が展示され、近代美術の発展に尽力した本県出身の作家の活躍が理解できるように配慮



総合展示室「いわてのイヌワシの山」



総合展示室「庶民の暮らし・農村の人々」



国指定重要文化財 旧佐々木家住宅(曲り屋)

されていました。現在それらの美術作品は、平成13年に建設された岩手県立美術館に移管されています。また、昭和55年開館当初から岩手県立博物館のシンボルとして県民の皆さんに愛されてきた「三人の妖精」(アリスティード・マイヨール・作)も平成13年に県立美術館に移設されています。



三人の妖精 (Trois Nymphes)

## 【40周年特別企画展示】

当館ではこれまで周年行事として特別企画展を実施してまいりました。平成2年、開館10周年には、「北の鉄文化展」を、平成12年の20周年には、「北の馬文化展」を、平成22年の30周年では、「いわての漆展」を開催しました。

今回の40周年記念特別展は、「みる！しる！わかる！三陸再発見」をテーマとして三陸地方のまだ広く知られていない部分に光を当て、三陸とはどのような地域であるのかを、自然史・文化史の観点から多角的に紹介します。また、今年度

は東日本大震災から10年目にあたり、記憶を新たにし、月日とともに薄れがちな防災・減災意識を高める契機にしたいと考えています。

今年度の展覧会は、「化石の水族館」、「個性派役者勢揃い～岩手の操り人形～」、「いわての政治物語－幕末・明治・大正－」、「縄文いわての環状列石」を開催するほか、随時常設展の展示替えやトピック展示を予定しています。

## 【入館者数の推移】

開館当初は、10年間で140万人の入館者を目標としました。当時の岩手県の人口は140万人であり、全県民が一度は博物館に来館してほしいとの思いからの入館者数の設定でした。開館した昭和55年から今日まで、県内外のお子様から高齢者の方に至るまで多くの皆様にいらしていただいております。

また、昭和59年10月に皇太子同妃両殿下（現上皇・上皇后両陛下）、平成2年10月に皇太子同妃両殿下（現天皇・皇后両陛下）、同5年10月、同24年12月には秋篠宮同妃殿下にご来館いただきました。

39周年を終えた時点（令和2年3月末）

での総入館者数は、2,958,705人です。今年度41,295人の方にいらしていただきますと、開館以来の入館者は300万人となります。是非とも開館40周年に入館者数300万人を達成し、記念の年に花を添えたいと思っています。

## 【震災と県立博物館】



宮城資料ネットワークのボランティアによる被災資料クリーニング（仙台市・2012年12月）

岩手県立博物館にとって、この9年間で最も大きい出来事は東日本大震災でした。被災した県内の「郷土の宝」を救うため、県立博物館は震災直後から被災した資料の受け入れを開始し、東京国立博物館、国立科学博物館など全国の専門機関と連携して被災文化財の再生に取り組んできました。この被災文化財修復作業は、地域の文化や歴史を過去から未来に

つなぐ作業でもあります。今後も台風や地震等の災害が予想されています。そのような場合にも県立博物館の役割は大きく、地域の中心となって被災文化財の再生等に力を尽くさなければならないと考えています。



綿布に描かれたアクリル画の安定化処理作業（岩手県立博物館・2017年4月）

## 【おわりに】

平成20年に「岩手県立博物館使命書」が制定されました。使命書には「私たち岩手県立博物館は5億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かな多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館として機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指す」ことが記されています。

この使命書に基づき、今後創立50周年、60周年に向け、県民と一体となった博物館活動の促進を図りたいと思っています。そして、開館当初より目指してきた「開かれた博物館、行動する博物館、親しまれる博物館」を更に推進して、多くの方に繰り返し足を運んでいただき、「楽しかった。もう一度来てみたい」と思われるような岩手県立博物館であり続けたいと考えています。今後とも皆様の一層のご支援をお願いいたします。



第8回全国育樹祭に際して来館された皇太子同妃両殿下（現上皇・上皇后両陛下） 昭和59年10月14日

※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のために、今年度開催を予定しておりました開館40周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」は、中止とさせていただきます。今後の予定につきましては、あらためてお知らせいたします。記念特別展を楽しみにされていた皆様には大変申し訳ありませんが、ご了承のほど、よろしく願いいたします。

■開館40周年記念

岩手県立博物館 展覧会のあゆみ

新型コロナウイルスに関する緊急事態宣言の対象地域が4月16日に全国に拡大されたことを受け、4月25日(土)~5月6日(水)までの間、当館は臨時休館となりました。また、6月6日から予定していた開館40周年記念特別展「みる!しる!わかる!三陸再発見」の開催をやむなく中止することとなりました。

本来令和2年度は、岩手県立博物館が開館して40周年を迎える節目の年でしたが、残念な結果になりました。ここでは、開館30周年からの企画展や特別展のポスターをたどりながら、その変遷をご紹介します。



2010年7月23日~8月29日  
北東北三県共同展  
「境界に生きた人々」



2010年10月2日~11月7日  
開館30周年記念特別企画展  
「いわての漆」



2016年3月26日~5月15日  
特別展  
「近代へのとびら」



2016年6月7日~8月21日  
第67回企画展  
「古生代の大量絶滅と回復」



2016年9月22日~11月27日  
特別展  
「スポーツ博覧会いわて」



2012年7月14日~8月19日  
第63回企画展  
「土偶まんだら」



2013年6月29日~8月18日  
第64回企画展  
「いわての光る生きものたち」



2014年6月28日~8月17日  
第65回企画展  
「ふるさと岩手 八戸藩の礎となった母と子」



2016年9月22日~11月27日  
巡回展  
「2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」



2017年6月3日~8月20日  
第68回企画展  
「遮光器土偶の世界」



2018年1月8日~3月22日  
巡回展  
「海を越えた絆」



2015年6月30日~8月23日  
第66回企画展  
「商家の暮らし」



2016年1月14日~2月28日  
特別展  
「発掘された日本列島2015」



2016年1月14日~3月6日  
特別展  
「海に生きた歴史」



2018年6月2日~8月19日  
第69回企画展  
「魅力的な8本脚の生きもの クモ」



2019年9月21日~11月24日  
第70回企画展  
「よろい・かぶと・かたなの世界」



2020年1月11日~2月24日  
共同展  
「被災資料再生の今」

■活動レポート

## 岩手県立平舘高等学校との連携プロジェクト

体験学習室ハンズオン資料水干の製作

県立博物館では博学連携事業として、県立平舘高校家政科と共同で当館の体験学習室のハンズオン資料製作を行っています。

令和元年度は、体験学習室で男の子が着る衣装が少ないとの来館者の声を受けて、歴史装束水干の製作に決定しました。また親子で着用体験ができるようにと、大小の2着を作ることになりました。

水干は、平安時代の男性の簡易な衣装のひとつで、名前の由来として「糊をつけずに水をつけて張った簡易な生地を使っているから」とも「晴雨両用で便利だから」ともいわれています。

平泉に奥州藤原氏が栄えていた時代の絵巻には、水干を着た人々が描かれています。「千と千尋の神隠し」でハクが着

ていたのも水干です。

作業は課題研究の授業の一環として行われ、同校被服班に在籍する3年生4名の皆さんが取り組みました。袖口や肩口部分に細かくミシン目を入れ補強するとともに、胸元や袖に菊綴の装飾をつけ華やかに仕上げることができました。

その成果は1月の平舘高校での課題研究発表で披露され、2月には完成披露・引渡式を無事に執り行うことができました。



平舘高校での製作の様子

た。

成果品は、3月中旬から当館体験学習室「身につけるコーナー」で展示していますので、ご来館の際はぜひ着用してみてください。

(学芸第三課 武田麻紀子)



製作した平舘高校の生徒さんと完成した水干衣装

■活動レポート

## チャレンジ! はくぶつかんの令和元年度皆勤賞受賞者

当館では、主として毎月第2、3土日(詳細はHP館内掲示等をご覧ください)に、小学生向けに「チャレンジ! はくぶつかん」を開催しています。総合受付で「チャレンジシート」を受け取り、そこに書いてあるクイズに館内の展示資料を見ながら答えるというものです。

展示資料近くにチャレンジマークが貼ってあり、何色のマークかを答えるのが主なクイズなので、小さいお子様でも参加でき、兄弟姉妹やその他ご家族で楽しく探しながら広い館内を見学できます。毎月異なるテーマで問題が作られていますので、新たな展示資料の発見にもなり、まさに博物館ならではのクイズと好評です。

「チャレンジ! はくぶつかん」に挑戦

すると、カードにスタンプがもらえます(一月に一個)。スタンプが4個たまるとに景品と交換でき、受付で用意した文房具から選べます。毎月挑戦して12ヶ月分のスタンプがたまると、来館時に皆勤賞の表彰を行い、記念品を差し上げます。

令和元年度は23人の皆さんが最優秀チャレンジャー(皆勤賞受賞者)となり、



晴れがましい笑顔が見られました。

今年も子供たちの挑戦を心よりお待ちしております。

(学芸第三課 金子昭彦)

### ★★★おめでとうございます★★★

- 8回目 細越 空さん
- 6回目 伊藤桃子さん 小原碧生さん
- 5回目 篠田典子さん
- 3回目 大林志聞さん
- 2回目 小原 杏さん、蘭さん、小笠原多映さん、櫻田千夏さん、真尋さん、悠悟さん、滝村菜々子さん
- 1回目 11名の方々

※最優秀チャレンジャーの皆さんの表彰風景は、館内2階のミニプラザ掲示板にてご紹介しております(許可をいただいた方のみ)。

■活動レポート

## トピック展「お雛さま」と「五月人形」

会期：令和2年2月16日(日)～5月31日(日) 場所：総合展示室(庶民のくらし)

節供(せつく)とは、年間の節目となる年中行事とその日を意味します。

現在も広く知られている節供は、正月7日の人日(じんじつ)、3月3日の上巳(じょうし)、5月5日の端午、7月7日の七夕、9月9日の重陽(ちょうよう)の五節供で、これらは中国から伝えられ、平安時代に貴族社会へ浸透し江戸時代に民間に広まったものといわれます。



享保雛と花巻人形

「節供」には、供御(くご)(飲食物の敬語)を供えて神祭を行い、あとでその食べ物をいただくことにより、その霊力を身につけようとするものだといわれています。3月3日には、菱餅、雛菓子を供え、甘酒や蛤のお吸い物、ちらし寿司でお祝いをします。5月5日には、柏餅やちまきを食べることで厄除けをして子どもの健やかな成長を願ってきました。

今年度は上巳の節供に合わせて、館蔵品の芥子雛や享保雛、花巻人形を展示しました。縁起をかつぐ恵比須様や大黒様の土人形とともにひときわ華やかな雰囲気になりました。

端午の節供には、力強さの象徴である力士の花巻人形や見得を切る武者人形、子どもの立身出世を願う「鯉曳き」や義

経・弁慶をモチーフにした五月人形を展示しました。



五月人形の展示風景

今年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止の自粛ムードが続く中、多くの皆さまの目に触れることはなく残念ではありましたが、悪疫退散の願いを込めて展示いたしました。

(学芸第一課 近藤良子)

■事業報告

## MORIOKA 神保町ヴンダーカンマーの共催

開催日：令和2年2月15日(土)・16日(日)

ヴンダーカンマーというのはドイツ語で、日本語では「驚異の部屋」や「不思議の部屋」と訳されています。もともとは、15～18世紀のヨーロッパで航海の技術が発達するとともに、富裕な貴族や商人が世界中から集めた珍しい生き物の標本や美しい工芸品などを並べて楽しむために作った部屋のことです。後の博物館の基礎ともなりました。

「神保町ヴンダーカンマー」は、生物・化石の標本やそれらを題材にしたリアルなアート作品・工芸品、自然史教材などを制作する作家や団体が集まり、東京の神保町で作品展示と販売を行うイベントです。それを盛岡でもやろうと始まったのがMORIOKA神保町ヴンダーカンマーで、昨年2月に初めて岩手県公会堂で開

催され、当館も標本を出展しました。

今年は県公会堂で2月1日・2日、当館で15日・16日に開催され、東北地方で活動する作家や博物館を中心に10を超える出展者がありました。来場者は、県公会堂では約450名、県博では約600名に上り、和やかに盛り上がりました。

当館では、グランドホールに設けられた9つの展示ブースに、昆虫や植物のことが学べる教材、恐竜など絶滅した生物が描かれたTシャツやバッジ、ウニやホヤ、鯨など海の生物をモチーフにしたグッズ等が所狭しと並びました。

その場でブローチやブックカバーなどの作品を手作りするワークショップでは、指導する作家と参加者の間で会話はずんずん進んでいきました。

15日には関連イベントとして、古生物復元画の分野で活躍する画家の小田隆さんが、当館のシンボルであるマメンキサウルスの骨格の前で、生きているマメンキサウルスの絵を描くライブドローイングが行われました。完成した絵はそのまま当館に寄贈され、現在はマメンキサウルスの足元に展示されています。

(学芸第二課 鈴木まほろ)



小田隆さんによるライブドローイング



### 新型コロナウイルス感染防止への対応について(6月現在)

新型コロナウイルスへの対応のため、制限を設けながら開館しております。

入館の際にはマスクの着用をお願いしております。また手指の消毒、体調確認や体温測定へのご協力を頂いております。混雑する場合は入館や利用を制限し、状況によって臨時休館となることがあります。ご利用を楽しみにいただいている皆様には誠に申し訳ございませんが、ご理解のほどよろしくお願いいたします。

最新の情報につきましては当館ウェブサイト、SNS等でお知らせいたしますので、ご確認いただきますようお願いいたします。

- ・6月からの開催を予定していた「開館40周年記念特別展『みる!しる!わかる!三陸再発見』」は、開催を中止します。
- ・営業を休止していた「軽食・喫茶ひだまり」は6月2日から営業を再開しています。営業時間外でも自動販売機や休憩場所としての利用は可能です。
- ・「たいけん学習室」は平日のみ利用可能です。「映像室」は利用を制限しています。詳しくはお問い合わせください。
- ・「チャレンジはくぶつかん」は開館している限り、通常どおり実施します。
- ・3月より催している「化石の水族館」は、8月23日(日)まで延長して展示します。

#### お知らせ

##### ●夏の臨時開館

令和2年7月27日(月)、8月3日(月)、8月11日(火)、8月17日(月)は臨時開館します。

##### ●資料整理に伴う休館

令和2年9月1日(火)～9月10日(木)は資料整理のため休館します。

##### ●敬老の日 65才以上入館無料

令和2年9月21日(月・敬老の日)は65才以上の方は無料で入館できます。

#### 展覧会

##### ●テーマ展「化石の水族館」

令和2年8月23日(日)まで延長開催(開館日は当館HP等で確認を)



今からはるか大昔、地球上には今とはまったく違った生物たちが住んでいました。彼らは果たしてどのようにして生きていたのでしょうか。今回のテーマ展ではおもに水の中で生活していた生物を中心に、さまざまな時代の化石の展示をとおして、皆さまを「地質時代の水族館」へとご案内します。

写真撮影コーナーを新設しました。古代の生物たちと一緒に記念撮影!

#### 各種イベントの実施・再開について

◆古文書講座 中止します

◆たいけん教室 6月21日より再開します

◆ミュージアムシアター 7月より再開します

◆日曜講座 9月より再開します

◆第80回自然観察会(於:久慈市 7月23日) 中止します

◆第79回地質観察会(於:南三陸町 7月4日) 中止します

◆ナイトミュージアム(8月7・8日) お問い合わせ下さい

#### 週末の催し

◆ミュージアムシアター ※9月はお休みします

毎月第1土曜日 13:30～15:00頃 講堂 当日受付 視聴無料

○7月4日 夏休み直前スペシャル「ピーターパン(アニメ/75分/子ども～一般向け)」

○8月1日 夏休み映画 ①ぞくぞく村のオバケたち・おおかみ男(20分)、②ドラキュラのむすこ(20分)、③王さまでかましよう(12分)、④つりばしわたれ(13分)

◆チャレンジ!はくぶつかん (開館日は当館HP等で確認を)

毎月第2・第3土曜、日曜、祝日 小学生向け 随時受付

6月13日・14日・20日・21日 テーマ:三陸(さんりく)

7月11日・12日・18日・19日 テーマ:気仙(けせん)

8月 8日・9日・10日・15日・16日 テーマ:八(8・はち)

9月12日・13日・19日・20日・21日 テーマ:人(ひと)

チャレンジ!マークをさがしてはくぶつかんをたんけん!

◆たいけん教室～みんなのためそう～(事前申込制)

毎週日曜日 13:00～14:30 幼児(3歳以上で保護者同伴)・小学生5名程度  
さまざまな遊びやものづくり、実験を体験してみましょう。

※全プログラム有料です(材料費代/プログラムごと異なります)。

※要事前申込み。開催日の1週間前の日曜日から電話または博物館で開館時間(9:30～16:30、休館日を除く)に先着順に受け付けます。

予約状況・材料費代はホームページでご確認ください。

6月	21日	手づくり万華鏡	7月	5日	ウォータードームづくり
	28日	化石のレプリカ		12日	ミニさんさだいで
8月	2日	ちぎり絵のうちわ*	7月	19日	ミニさんさだいで
	9日	天然石のフォトフレーム*		26日	ミニさんさだいで*
	16日	化石のレプリカ			
	23日	3Dメガネで万華鏡	9月	お休み	
	30日	スライムで遊ぼう			

★7月26日、8月2日、8月9日は午前[10:00～11:30]と午後[13:00～14:30]の2回実施します。

#### 夏休みスペシャル!ワードパズルとクイズに挑戦しよう!

##### ◆夏休みスペシャル!ワードパズル

令和2年7月23日(木・祝)～8月17日(月)

かんたん、ふつう、むずかしいの中から選んでワードパズルに挑戦してみよう!

##### ◆夏休みスペシャル!恐竜・化石クイズ

令和2年7月23日(木・祝)～8月17日(月)

「絶滅したい生きものたち」の名まえを当ててクイズに挑戦してみよう!

#### 写真コンテスト

テーマ「私の岩手山」 四季折々の「私が大好きな岩手山」の姿を写真にして博物館に送って下さい。撮影場所は問いません。

応募形式 単写真(A4判 一人3枚まで応募可 機材・白黒カラー不問)

応募方法 当館ホームページから応募用紙をダウンロードし、必要事項を記入の上、写真と共に当館総務課宛送付して下さい。開館時であれば持参も可能です。

応募期間 令和2年6月16日(火)～令和3年2月26日(金)

応募作品は展示の上、優秀作品については表彰します(展示期間・表彰式は未定)

※詳細は当館ホームページにてご確認ください

#### 定時解説

土曜日・祝日 13:30～14:30

解説員が常設展示室をご案内します。そのほかにも随時、解説員が皆様の質問や解説のご要望におこたえしています。

※他の館内イベントとの兼ね合いでお休みする場合があります。

#### 利用のご案内

■開館時間 9:30～16:30(入館は16:00まで)

■休館日 月曜日(月曜が休日の場合は開館、翌平日休館)  
年末年始(12月28日～1月4日)

■入館料 一般310(140)円・学生140(70)円・高校生以下無料  
( )内は20名以上の団体割引料金

※学校教育活動で入館する児童生徒の引率者は、申請により入館料免除となります。

※療育手帳、身体障害者手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方、及びその付き添いの方は無料です。

岩手県立博物館だより 第165号 令和2年6月1日発行	編集 岩手県立博物館 〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34 Tel. (019)661-2831/Fax. (019)665-1214 発行 公益財団法人岩手県文化振興事業団 〒020-0023 盛岡市内丸13-1 Tel. (019)654-2235/Fax. (019)625-3595
-----------------------------------	---

新型コロナウイルスへの対応のため、催し物の予定が変更になる場合があります。最新の情報は当館HPで確認されるか、電話等で直接お問い合わせ下さい。